

福井県におけるサクラマス増殖の取り組みについて

福井県水産試験場内水面総合センター 銚崎 有紀

1. はじめに

九頭竜川でのサクラマス釣りは、釣り人の間で「サクラマスの聖地」といわれるほど、全国的に有名で、「ルアー」や「フライ」によるスポーツフィッシングを楽しむために、毎年約5千人もの釣り人が訪れている。そこで、九頭竜川サクラマス釣りのブランド力を高めるため、地元の漁協が事業主体となり、九頭竜川で獲った親魚から採卵し育てた人工種苗を放流し、本県産サクラマスの資源増大を図っている。県はこの取り組みを支援し、地域や釣り人達とも協力して活動を行っている。

2. 取り組み内容

九頭竜川に遡上したサクラマスを探捕、これを親魚として採卵し、稚魚を育成、毎年1万尾を放流する。サクラマスの採捕は、当センターと釣り人グループが連携して行った。親魚養成と採卵から稚魚育成までは、漁協が生産組合に委託した。

3. 効果

平成19年度に事業を開始して以降、釣獲尾数や遊魚券売上枚数は高い水準で推移し、1人あたりの釣獲尾数も増えている。稚魚放流は地元の幼児園児によって毎年行われ、地元の自然に関心を深めるイベントとして定着した。漁協は平成26年よりサクラマス専用遊魚券を発行、九頭竜川のサクラマスは、誘客には欠かせない重要な水産・観光資源として位置づけられた。

4. 今後の事業展開

九頭竜川本流の一部だけでなく、九頭竜川水系全体で放流する稚魚が九頭竜川由来となるよう、親魚を養成し、稚魚を増産することで、九頭竜川水系全体のサクラマス資源増大および漁場拡大を図る。さらに、県内のサクラマス（ヤマメ）とアマゴとの交雑実態とその影響調査も進めていく。

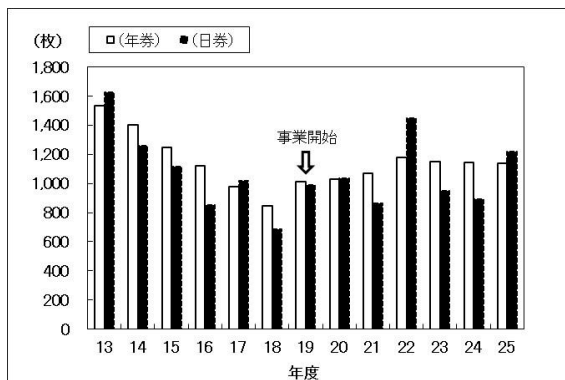


図1 サクラマス釣り遊魚券売上枚数の推移

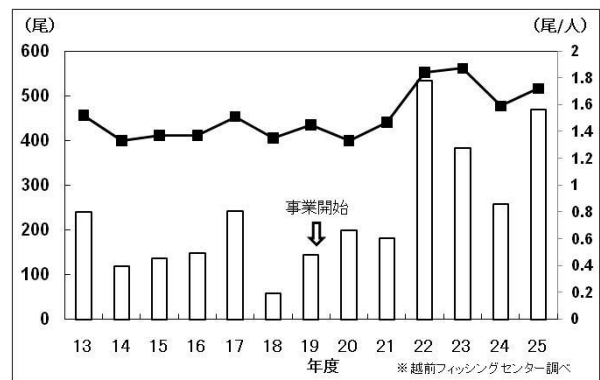


図2 サクラマスの釣獲尾数の推移